

「みこころが天で行われるように、地でも行われますように」

マタイ6：10

堀田修一 22・7・10

I 主の祈りは、祈りの中で最高の祈り。すべての原則、要素が含まれている。神である主イエスが教えられた祈り故。主の祈りの内容を思い起こしたい。主の祈りは、すべての原則、要素を含む。「天にいます（天と地を創造された偉大なお方、天と地のすべてを支配しておられる摂理、ご計画の神、全能のお方）私たちの父よ（本来、近づけないほどの偉大な方が、主を信じる者を神の子どもとして愛してやまない、暖かい完全な親。神の子どもとされた私たちに恵もうと待っておられる全く正しく深い愛のお方）。御名が聖なるものとされますように（御名、神御自身が、世界で唯一の本物の神として聖別され、御名が崇められますように。私たちは、唯一まことの神を崇め礼拝するために神に造られ、救われた。神は私たちが御名を崇め賛美し感謝し神を礼拝するのを最も喜ばれる）。御国が来ますように（御国＝①神の支配が私たちの心に来ますように。私たちが、福音を聞き主イエスを主、神、ご主人と信じ、主を心に迎えるとき、私たちの心に神の国が宿る。自分の罪を告白し続け、主を心の王座に迎え続けるとき、神の国は、私たちの心で広がり、神の支配領域は広まる。神を崇める礼拝、主を中心とした祈りや交わりの中に神の国が存在している。福音の世界宣教により救いが広まり、世界の一人一人の心に神の国が来ますように。主の祈りは「宣教の祈り」でもある。②主の再臨により、人と全被造物が全く新しくされ、新天新地、神の国、神の支配が完成し、神が造られた人間と全被造物により神の御名が崇められる礼拝が獻げられますように）。このような意味を込めて心から主の祈りを祈り続けたい。9節の「こう祈りなさい」の原語は、こう祈り続けなさいの意。「主の祈り」が心から世界中で意味をかみしめて祈られ続けるとき、御聖霊によるリバイバルが起こるだろう。主が教えられた祈り故に！

II 本日は「みこころが天で行われるように、地でも行われますように」：10の意味を掘り下げたい。主の祈りの祈りは深い関係がある。

- ①「御名が聖なるもの（聖別、主なる神が唯一本物の神とされる御名があがめられる）とされますように」が実現するとき、
- ②「御国（唯一本物の神の支配）が来ますように」が実現し、神の国、神の支配が拡大する。御国、神の支配が来るとは＝
- ③「みこころが天で行われるように、地でも行われますように」が実現することで。御名と御国（神の支配）とみこころは、三つの側面。

1. 「みこころが天で行われるように」。天においては、神のみこころは、常に完全に行われている。天国の特色は、神が造られ、神に救われた人々が、神に愛され、神を愛し、互いに愛し合い、神を崇め礼拝している姿である。神に造られた天使たちも神を礼拝し、神に喜んで仕えている。天地万物の最大の望みは、神のみこころを行ない、それによって神の御名を崇め、ほめたたえ、礼拝すること。神のみこころ＝「主イエスの恵みが、すべての天地万物とともにありますように」

黙22：21。聖書の最後の締め御言葉。

2. 「みこころが…地でも行われますように」。なぜ、この祈りを主が教えられたか。それは、神のみこころ＝神の意志、神の喜ばれることが地では行われていないからである。偽物の神々や独裁者が崇められ礼拝され、悪の支配、悪の戦争による神が定められた領土が侵略されている。「神は、一人の人からあらゆる民を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、住まい（国々）の境（境界）をお定めになりました」使徒17：26。これまでの歴史の中で、世界の国々や過去の日本が犯したアジア諸国への侵略戦争、現在はロシアの独裁者による自分の国以外の国の領土を奪う侵略戦争は、国々の境界を定められた神のみこころに背く大きな罪である。日々、真剣に「主の祈り」を祈りたい。神が定められた境界線を越え、悪の国、悪に心を支配され戦争を指導している独裁者が、真の支配者である神に悔い改め、戦争を止めるように祈り続けたい。支配的な人に人々が従っていても、人々から信頼はされていない。神は「今の世、今の地上のものは、いずれ滅ぼされるのだから、あきらめよとは言われない。地の塩として、祈りとみことばと信仰により、世の悪の歯止め（選挙も）となり、世の光として、主の救いの福音の光を広めなさい」と言われる。マタイ5：13, 14。「御国（神の支配）が来ますように」との祈りは、悪魔や強い人、自分自身の支配ではなく、恵みとまことに満ちた「神の支配」が来ますようにとの祈り。ある国が、ある国を神の境界線を越えて支配、侵略するのが罪であるように、人と人の関係も同じ原則。「支配」は鍵となることば。人間関係で、愛の反対は「支配」である。家族、知人、友人、学校、会社、スポーツ界等での問題の根源は、恵みとまことに満ちた神ではなく圧をかける人間が支配する罪である。※スポーツ界、会社、大学の他の人の意見に耳を傾けない支配的な人の交代の例。偉大な神である主イエスが、へりくだり、人となり十字架で死なれたみこころは、この世の支配、横柄さ、人々をコントロールする権力による関係を変え、互いに仕え合う（神のみが支配され、人を支配しない、人に支配もされない。主を中心に愛をもって聞き、愛をもって真実を語り合う）共同体を産み出すため。「異邦人の支配者たちは人々に対して横柄にふるまい、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています。あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で…皆に仕える者になりなさい。人の子（主）が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖い（償い）の代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい」マタイ20：25-28。主に支配される人は、人を支配しないし、人からも支配されない。神の支配は人格を縛らないが人の支配は人格を縛る。

3. この地にあって祈る祈りの定義＝ある教理問答「祈りとは、神のみこころに一致することのために、キリストの御名によって、私たちの罪の告白と神のあわれみへの感謝に満ちたお礼を添えて、神に私たちの願いをささげることです」。祈り続けるとは、「神のみこころに一致する」ことを求めることです。※47年ほど前の「聖会」のメッセージの証し。ギター之音合わせ。主イエスの祈りの模範：主は「わが父よ。できることなら、この杯（すべての人の罪のために十字架で神の正しい刑罰を受け、神と断絶される）をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにはではなく、あなたが望まれる（みこころがなる）ままに、なさってください」と三度祈られた。マタイ27：39, 42, 44。この格闘の祈りを通して、主は、御父のみこころと一致する心が与えられ、「さあ、行こう」（：46）と自ら進んで私たちの救いのための十字架に向かわれた。ここに、祈りの神髄がある。

①私たちは、自分の願いを御父に正直に祈って良い。

②と同時に、最後に「私の望みではなく、神の最善のみこころがなりますように」と祈るのである。私は、この祈りを実践しているが、これこそ最高の祈り。願いが聞かれたとき、神に栄光を帰し感謝する。願いが聞かれず御父が別の結果を与えられても平安がある。今は、理解の限界のある私には、分からなくても、すべてを支配しておられる全能の神は、最善を成して下さると信頼できるから。

4. 神のみこころを知る助け。①神と交わり続ける祈り。神は静かに私達の心に少しずつ示される。②神の生けるみことばを日々読み味わう。少しずつ示される。③環境、状況を通して少しずつ示される。④信頼できる人の助言。但し、助言に従い、その結果が悪いと助言者のせいにする責任転嫁は良くない。助言は、字のごとく、助ける言。支配、断言、強制、命令ではない。助言を受けても、神のもとに戻り、神に祈り、自分の責任で決断したい。相談を受けるとき、相談される人と自分の間に、主を置くように心がけたい。つまり神が与えられた人格的な境界線を越えないように。心で祈りつつ助言をしても相手を支配せずみこころがなる事を祈る。最終的な決断は、その人自身がされるように励ます。私達が祈り決断をし、その結果を主に頼り自分で受け止めていく時、人は成長する。「あなたがたの信仰を支配しようとする者ではなく、あなたがたの喜びのために協力して働く者」Ⅱコリント1：24。みこころがなりますように！